ハートをこがせ！

Vol.12

山梨県立ひばりが丘高校
うどん部

地元のソウルフード「吉田のうどん」の魅力を全国に発信中！

人々との触れ合いを大切にしながらおいしさを伝える

❶うどんの手打ち体験で子どもたちを指導。自分で打ったうどんを食べて、そのおいしさを実感してもらい、家族や友だちに吉田のうどんの魅力を伝えていってほしいと始めた活動。

❷地域の祭りや観光物産展などで出店。「うどんコロッケ」や「うどんバーガー」は、吉田のうどんを手軽に楽しんでもらいたいと、うどん部が開発した商品だ。

❸道の駅に「うどん案内所」を開設。観光客の好みに合った店を紹介できるのも、市内すべての吉田のうどん店を取材したからこそできること。❹フリーペーパー「うどんなび」（年１回発行）は、取材依頼、取材・撮影、誌面作成など、すべて生徒が行う。

うどんを通した学校外の人との交流は生徒の自信を高めていく

❺知名度アップを目指そうと、全国のご当地うどんを広める学生たちとも交流。三重県伊勢市のうどん大使や東京大学のうどん部などが集まり、互いのうどんを作って試食。

❼商業高校の研究発表大会やホームページのコンクールなどにも積極的に参加・応募し、うどん部の活動を紹介。上位入賞も果たしている。

❻うどん部の活動は、新聞やテレビで取り上げられることも多く、取材の数はこれまで 50 件以上にもなる。吉田のうどんの魅力を伝える表現力もレベルアップした。

山梨県富士吉田市のソウルフード「吉田のうどん」を全国の人にもっと知ってほしい！　そうした思いで奮闘しているのが、山梨県立ひばりが丘高校のうどん部だ。吉田のうどん専門のホームページやフリーペーパーで全国に情報を発信したり、地元の製麺業者と協力してオリジナル麺を開発し、道の駅や物産展で販売したりと、うどんの魅力を伝え続けている。

２０１５年には富士吉田市から「吉田のうどん観光大使」に任命され、週末にはイベントや取材などに引っ張りだこ。ほとんど休みはないが、５人の部員たちは吉田のうどんの知名度アップのために日々精力的に活動している。

山梨の名物と言えば「吉田のうどん」誰からもそう言ってもらえる日を目指して

生徒のインタビューは P.20

ハートをこがせ！ Vol.12

山梨県立ひばりが丘高校

うどん部
うどんを打って、売って、おいしさを伝えたい

準備は大変でも、お客様の笑顔が何よりの力！

「コシが強く、太いねじれ麺は噛むほどに味が出ますし、みそとしょうゆを合わせたつゆは絶品です。定番の具はキャベツで、馬肉もよく使われます」と、吉田のうどんのおいしさを熱烈にアピールしてくれた部長の天野さくらさん。山梨県立ひばりが丘高校うどん部の目標は、「吉田のうどんを県内外に広め、知名度で讃岐うどんに勝つこと」だ。

現在部員は5人。年1回発行のフリーペーパーの製作、オリジナル商品の開発、イベントでのうどん販売など、多彩な活動を展開しているが、吉田のうどんの知名度は讃岐うどんにまだまだ及ばない。そこで、2015年度に始めたのが、うどん部による手打ち体験会の参加者を「プチ観光大使」に任命する制度だ。部員が先生となってうどんの作り方を教え、そのおいしさを実感してもらい、一緒に情報発信する人材になってもらおうというわけだ。幼稚園や祭り、海外からの留学生との地域交流イベントなどで行った体験会で、既に300人以上を任命している。

手打ち体験会やイベントへの出店は具やつゆの仕込みなどが大変だが、志村瑠奈さんは多くの人たちと触れ合うのが何より楽しいと語る。

「みんなが笑顔で『おいしい』と言って食べてくれる姿にやりがいを感じます。学校外の人と話すことが多いので、人前で話すことへの苦手意識がなくなりました」

1年生の今野翼さんが、入部してまず先輩から教わったのがうどんの打ち方だ。「麺が細い」「水が多すぎる」など、何度も指摘を受けながら、コシの強い麺の加減を習得した。打ち方の技を自分のものにしようと、疑問に思ったことは何でも先輩に聞いたと、今野さんは言う。

「麺作りの道具を購入して、家でも日々練習しま

教師の思い

授業だけでは学べないことを、実社会で体験し、生徒は大きく成長する

山梨県立ひばりが丘高校
大久保 健
おおくぼ・けん
教職歴20年。同校に赴任して11年目。教務部。

励ましの言葉だけでなく、時には理不尽な経験も

うどん部の活動は、情報経理科の授業の一環として2010年に始まりました。課題研究でのホームページ製作において、地元の名物である吉田のうどんのお店を紹介するというテーマであれば、生徒の学習意欲が高まると考えたのです。少しずつ、一般の人にも利用してもらえるホームページに成長し、活動の幅が広がっていきました。

活動はすべて生徒が行っています。外部との窓口は教師が担当しますが、依頼を受けるかどうかは生徒が決め、引き受けたからにはどんなに大変でも最後までやり遂げています。そうした実績が認められ、15年度に正式な部活動となりました。テレビや新聞でうどん部の活動が取り上げられたこ

した。その苦労があったからこそ、手打ち体験会でもうまく教えられるようになったと思います」

フリーペーパーでは市外の店も紹介。5号では都留市や大月市など、17年3月発行予定の6号では甲府市まで範囲を広げると、坂田実久さんは言う。

「市外でも吉田のうどんが食べられることを広めようと取り上げました。インターネットで取材候補を探し、店を訪れて食べて、誌面で紹介したいと思った店はその場で掲載を交渉しました」

地域からの期待と応援に応えていきたい

目下の課題は新入部員の確保だ。17年3月に3・4年生の3人が卒業し、部員が2人になる。1日にイベントを3か所もかけ持ちしたことがあるほど忙しい部活動だけに、吉田のうどんへの情熱を持って続けてくれる新入部員の入部を期待している。

埼玉県にある西武プリンスドームで野球の試合に合わせて開かれた「山梨県富士吉田市スペシャルデー」では、市から依頼を受けて、野球観戦に訪れた人たちに、キッチンカーで調理した吉田のうどんを販売。自分たちが製作したフリーペーパー「うどんなび」も配布するなど、吉田のうどんのＰＲに努めた。

「うどん部の活動は今や県外にも広がりつつあります。学校外の人とたくさん知り合いになり、自分を成長させられる部活動なので、ぜひ続けていってほしいと思います」（天野さん）

「イベントの依頼が増えたり、取材した店主から声をかけてもらったり、地域の人たちがうどん部の活動に期待し、応援してくれているのを感じています。部員が少ないからといって依頼を断りたくありません。先輩たち以上の活動ができるよう、頑張っていきたいと思います」（中野さん）

天野さくら あまの・さくら
普通科4年生。部長。「商品開発をしたり、取材を受けたりと、様々な経験ができて、自分が大きく変われた高校生活になった」

坂田実久 さかた・みく
情報経理科4年生。製作を担当したホームページは、コンテストで入賞。「メンバーと力を合わせて作る大変さと楽しさを感じた」

志村瑠奈 しむら・るな
普通科3年生。「うどん部の活動は人々をつなぐ活動だと思う。これからも地域を『つなぐ』存在でありたい」

中野吏希矢 なかの・りきや
普通科2年生。「普通の高校生活ではできない活動ができて、一つひとつの経験が大きな自信になっている」

今野　翼 こんの・つばさ
普通科1年生。将来の夢は自分のうどん店を持つこと。「うどんを食べに行こうと思った時に、真っ先に名前が挙がる店にしたい」

とで、市や企業からの依頼が増えました。また、地元の人から応援の言葉をいただくことは、生徒の大きな自信になっています。

初対面のお客様や企業の人と話したり、商品の原価計算をしたりと、活動のすべてが生徒の将来にわたって生きる力になると感じています。時には、礼儀や仕事の進め方の面で厳しい指摘を受けることもありますが、その経験は生徒の日常生活や授業態度にも反映されていきます。

一方で、生徒は社会の理不尽さも経験します。取材の予約を取って店を訪れたのに、相手が不在で、何度か連絡すると「しつこい」と怒鳴られたことがありました。そうした理不尽さは、社会で働くようになれば多くの人が経験することです。うどん部の活動は、授業だけでは学べないことを経験できる重要な場だと感じています。

山梨県立ひばりが丘高校

◎昼間部と夜間部がある2部制の定時制高校。通常4年制のところを、特別授業を設けて、3年間で卒業できる課程も有する。「自主自律」を校訓に掲げ、体験をベースにした学習を重視する「ひばりのドリカムプラン」を展開している。
◎設立　2004（平成16）年
◎形態　定時制（単位制）／普通科（昼間部、夜間部）・情報経理科（昼間部）／共学
◎生徒数　約100人
◎2016年度進路実績（現役のみ）
4年制大学は、山梨学院大に1人が合格。短期大学は1人が合格。専門学校進学7人、就職15人。
◎URL　http://www.hibarih.kai.ed.jp